

MIM Press

第1号 (5月7日発行)



さる5月2日、南地区公民館で第1回のMIM研修会を実施しました。家庭訪問等で、ご参加いただけなかった先生方もいらっしゃるので、簡単に概要と、今後のお願いをまとめておきます。

MIMは、主として読み書きの部分でつまづく子どもに焦点を当てた指導をします。特に特殊音節の理解が難しいようです。理由は音節の数と文字の数が一致しないことにあります。そこで特殊音節に特化してつまづく子どもを早く見つけ、早く手を打つことで、「勉強わかんない」という子どもを減らすことができるという仮説※が生まれました。

MIMでは3つの階層にわけて指導を行います。

1stステージ：全体指導の段階 → 多くの子どもがクリアします。(クリアする指導を工夫)

2ndステージ：1stステージをクリアしなかった子どもへ配慮して指導

3rdステージ：2ndステージをクリアしなかった子どもを取り出して指導

3つの階層に分けるという意味でMIMの最初のMIは多層階層指導という意味です。

先日の研修では、1stステージの指導方法について研修を行いました。

2ndステージ、3rdステージに関する研修は夏休み(8月5日予定)に行います。



まず特殊音節指導の前に、MIM-PMテストを

子ども達の今後の伸びや課題を正確に把握するため、実態調査を行います。

昨年度3学期に1～3年に行ったCRTテストもこのためです。昨年の1年生と、今年MIMによる指導を受けた1年生とを比較します。従って、テストは正確に行う必要があります。

実施の詳細は、**研修ビデオの34分あたり**をご覧ください、確認してください。

実施後採点をお願いします。結果を市教委へお送りください。データ入力市教委で行います。

続いて1stステージ指導、特殊音節の指導を行います

1年国語の年間計画では、5月中旬に特殊音節が登場します。MIMによる指導をしてください。詳しくは、**研修ビデオの1時間7分あたり**から、海津博士の説明があります。視覚化、動作化を取り入れ、一面的な指導に終わらず、いろいろな器官を使って獲得させていきます。国語というよりも語学学習の理にかなっています。また、気になる子どもが科学的に明らかになりますから、自信を持って指導に当たっていただけます。ビデオをご覧ください、**そんなに難しい指導でない**ことがご理解いただけます。いわゆる「すごいけど簡単」という指導です。いろいろな器官を使うことが特別支援教育の大きなヒントになります。他の指導にも活かしてください。**発達障害＝視覚支援という単純なものではない**ことを、この際ご理解いただけたらと思います。

ここから発達障害の疑われる子どもを早期に発見し、早期に対応する方法を獲得していただけます。

(文責 学校教育課 山田 孝)

※ この仮説は各地の学校で既の実証されています。福岡県飯塚市の取組をご覧ください。



LD について

予備知識として LD について確認しておきます。釈迦に説法とは思いますが、私が学んできたことを綴ります。

学習障害とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。学習障害は、その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されるが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接の原因となるものではない。

平成 11 年 (1999 年) 文部省

これは、1981 年にアメリカ NJCLD (学習障害に関する連邦合同委員会) の定義とほぼ同じです。

前半部分 (___ 部) は LD の状態というか様子について書かれています。学習していくうえで獲得する能力のうちどれかがうまく獲得できませんと書かれています。聞く、話す等の全部や多くが落ち込むことはありません。

後半部のうち ___ 部分は原因が、 ___ 部除外規定が書かれています。LD という言葉一般的に知られるようになる前は、MBD(微細脳障害)と言われた時代がありました。「知能がほぼ正常範囲で、視力、聴力、運動機能に大きな障害なく、行動上あるいは学習上で多様な症状を見せる」とされています。LD の定義とよく似ています。この頃から脳のどこかに障害があることが想定されています。つまりは後天的なものではないととらえていると読み取れます。

それが ___ 部の除外規定につながります。話す、聞くは完璧なのに読む、書くができない、よく調べたらあまり見えていなかったというのは除外しなさい、あるいは、文字を教えていないから読めないも除外というわけです。

では、**先生方のクラスの児童に思い浮かべてください。**

学習面で既に困難を示している子ども、怪しいなと感じる子どもの中で、4月の保健行事の結果や家庭訪問の記録をご覧ください。

- ・視力や聴力はいかがですか。
 - ・保護者が書かれた保健カードから、幼児期に大きな病気をしていませんか。
 - ・弟や妹の面倒を家ではずっとして全く勉強できる環境ではありません。
- などなどが気になるというのは除いて、それでも困難を示す子どもはいませんか。



Yes, you're right. LD is learning disabilities.

この者たちは、別の理由というわけでござるか





There is no royal road to learning.
Practice makes perfect.(習うより慣れろ)デスネ。

語学学習の王道

それは短時間でいいから繰り返すこと

よく「学問に王道なし」と言いますが、語学学習には特にこの言葉が当てはまります。これを読んでくださっている先生方も初めて英語を習われた頃のことを思い出していただくと、繰り返し書いて覚えたとか、何度も教科書を読んだとか、今でも暗唱できるぞとか、逆に、英語は苦手でそんなことはしていないとか。とにかく、5分でも10分でもいいから練習することが「語学学習の王道」なのです。

そういう意味で、MIMの指導はよく考えられていて、黒板に「まくら」「まっくら」と書いてもらって、パンパンパンと手をたたく活動を、**国語の始業時やちょっと隙間ができた時間帯に3語程度を毎時間することで、飛躍的にできるようになります。1~2分もあれば十分です。**もう少し時間があれば、海津先生から紹介のあったゲームをやってみる。また、MIM-PMテストを行う。このテストは、3番以外のテストは何度やってももらっても大丈夫ですから、これを繰り返すことで「読み書き名人」続出間違いなしとなります。国語も語学学習ですから、王道のルールに当てはまります。



MIMのベースになった考え方をアメリカで学んだとき

「LDの中には teaching disabled teachers によってLDになってしまった子が少なからずおり、そうした子ども達をLDと呼ばないで済むようにしなくては」といった厳しい指摘がありました。

2004年のIDEAで、LDの判断方法が変わったのも、そうした背景があります。つまり、「環境的な要因が直接の原因となるものではない」ことを、まずはLDの判断に際して、証明する必要があるのです。

学習のつまずきを個人の要因に帰結するには、前提として まずは、効果的な指導を行っていることが必要なのです。

MIMの背景にはそうした考え方があります。

先生方には、そろそろ1stステージが行われると思いますが、**1stステージの指導をいかに効果的に行うかで、その後の2ndステージや3rdステージ指導のやりやすさ、効果の大きさが大きく変わってきますので、大切に実施してください。**

IDEA : Individuals with Disabilities Education Act(個別障害者教育法)の略

上記は海津先生からのメッセージです。

是非、1stステージの指導では、わずかな時間でもいいので繰り返すことがポイントになりますから、子ども達と一緒にゲーム感覚でご指導くださいますようお願いいたします。

MIM-PMの第2回は6月26日(木)締切の予定。

終わってからの練習は何度されてもいいですが、事前練習はやめてくださいね。



実験系研究

昨年度末に実施しました MIM-PM テストの結果が戻ってきました。昨年度 1 年～3 年までの子ども達を対象に行われたものです。CRT (算数) と Reading テストの結果については既に図書文化社から各校に送られていると伺っています。今回はこれらのテストがどのような意味を持つのか少し解説しておきます。

平成 25 年度 (3 月に各テストの実施)

H25 年度 3 年	データ A
H25 年度 2 年	データ B
H25 年度 1 年	データ C

データ A、B、C が基礎データとなりますネ。



平成 26 年度 (3 月に同じテストを実施予定)

H26 年度 3 年 = H25 年度 2 年	
H26 年度 2 年 = H25 年度 1 年	データ D
H26 年度 1 年 = MIM 指導	データ E

昨年度 1 年のデータ C と今年度 1 年のデータ E を比較いたしますのでごさる。



データ E がデータ C よりも効果があれば、MIM による指導の有効性が証明されるというわけです。

彦根市学力テストは図書文化社の NRT という全国標準テストを行っていただいています。今年は 5 年、6 年の 2 学年で実施しました。昨年 5 年のデータと今年 6 年のデータを比べていただくと、成績が伸びていたら、全国標準に比べて先生方の指導や子どもの頑張りが良かったことを示し、下がっていたらその逆が想定できます。ただし、どの指導が良かったのか、良くなかったのかは、慎重に分析する必要があります。全国標準テストは受験者数 (母数) が大きいので、年度による誤差がないと見なせますから、このような比較ができるわけです。

MIM に戻ります。これは、違う集団で比較をします。50 人規模や 100 人規模で比較をすると、集団の質によって違いが出てくる可能性があります。よく「今年の 5 年はいいよ。」みたいな話を聞きますが、あれです。彦根市全体 1000 人規模になると母数が大きくなり誤差の範囲は小さくなります。また、昨年度と今年度の決定的な違いは MIM による指導をしたかしていないかなので、データ E とデータ C の比較は MIM の効果を見ることができると考えられます。

実験系の研究は、このように、排除できる要因を排除し、正確にデータを集めて検討をします。STAP 細胞の一件では、きちんとしたデータをとることの大切さを繰り返し報道されていました。

手間も、時間も、お金もかかってしまいます。しかし、今年していただいているのは、既に効果が確認されている手法ですから、先生方に MIM の効果がデータ E を見て、実感していただけるとおもいます。(言ってみれば検証実験と考えてください)是非前号でお知らせしたように繰り返しのご指導をお願いします。

余も埋木舎で勉学に励んだが、ご城下の子も達のことをお願いするでござる。

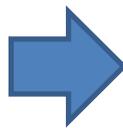
データ A、データ B は何のためかについては次回以降に述べます。(この通信で使用しているキャラクターについても近くお話しします。)





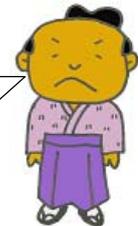
MIM-PMテストについて

小学校 1年 組 実施日 2014年5月26日					小学校 1年 組 実施日 2014年6月20日				
氏名	テスト総合点	テスト①正答数	テスト②正答数	前回との比較	氏名	テスト総合点	テスト①正答数	テスト②正答数	前回との比較
欠席		5	4	9	欠席				
9	6	3	3	9	22	15	7	15	
9	5	4	9	9	19	10	9	10	
9	7	2	2	9	17	13	4	8	
9	4	5	5	9	16	12	4	7	
7	5	3	2	7	16	9	7	10	
7	3	4	4	7	13	9	4	11	
7	7	0	7	7	12	7	5	5	
7	4	3	3	7	10	5	5	8	
7	4	3	3	7	10	6	4	6	
6	1	1	1	6	10	7	3	3	
6	2	3	3	6	8	7	1	1	
6	2	3	3	6	8	7	1	1	
6	2	3	3	6	8	6	1	-1	
5	2	3	3	5	8	4	2	4	
4	1	3	3	4	8	5	3	3	
4	4	0	4	4	7	4	3	2	
4	2	1	2	4	7	4	3	6	
2	2	1	0	2	7	4	3	-2	
2	2	1	0	2	7	4	3	5	
1	0	1	1	1	6	3	3	1	
1	1	1	0	1	6	4	2	1	
1	1	1	0	1	5	4	1	4	
0	1	0	0	0	5	3	2	4	
0	0	0	0	0	3	2	1	3	
0	0	0	0	0	2	2	0	2	
0	0	0	0	0	1	1	0	1	



左の赤い部分に「井」の字を配したら井伊家の旗になるの。

殿、そのような呑気なことをおっしゃっている場合にはごさいませぬ。ただ、このクラスは担任の先生のご指導が良く、ご城下の子供達も力が少し上がってきていることがわかります。



5月、まだ特殊音節の指導が始まる前のMIM-PMテストの結果と、指導後1ヶ月の結果を並べました。「そんなの指導しているから当たり前やん」と思われるかも知れませんが、そうではありません。このテストは、〇年生の△月実施の全国標準と比較していますから、普通に指導していたら、左のままの可能性が高いのです。5月の研修に基づきご指導いただいた結果、赤(個別指導が必要な段階)が減り、配慮をするだけで良い児童が増え、学年相応の力をつけた子どもが何人か出てきました。それでもまだ赤が多いので、1分、2分の指導をこまめをお願いします。きっとこの子たちが黄色にそして白に変わっていきます。

特殊音節の読みが苦勞なくできるようになると、読むことに対する抵抗が減るだろう。読み取る力や語彙が増えるだろう。すると思考力がつくはずです。これが仮説です。この仮説を実証するために、次の提案をします。

昨年度末、1～3年生にMIM-PMテストをしました。赤や黄色の割合を出していただき、現在の2年～4年の児童にもMIM-PMテストを繰り返させてみてください。正確に実施するために、最初は時間がかかるかも知れませんが、なれたら、配布から回収まで5分程度でできます。採点は各中学校ブロックに配置されたMIM支援員に送ってください。このテストを繰り返し行うことで感覚的に特殊音節を含む単語が入るようになり、読むことへの抵抗感が薄れるはず。もちろん5、6年生にも。難しい取り組みではありませんから、学校をあげて取り組んでみてくださいと井伊かと思います。(? 良いかと思います でした)



実験系研究 2

MIM Press 4号ではデータCとデータEの比較について説明しました。今回データBとデータAのお話しを。再度、表を掲載します。

平成 25 年度 (3月に各テストの実施)

H25 年度 3 年	データ A
H25 年度 2 年	データ B
H25 年度 1 年	データ C



昨年度の 2 年生と今年
の 2 年生を比較します

平成 26 年度 (3月に同じテストを実施予定)

H26 年度 3 年 = H25 年度 2 年	
H26 年度 2 年 = H25 年度 1 年	データ D
H26 年度 1 年 = MIM 指導	データ E

どちらも MIM の指導を受
けておらぬから、意味がな
いではござらぬか。



データCとデータEの比較は、MIMによる指導をしたか、していないかしか違いはありませんから、MIMの効用が検証できることを4号で述べました。では家来が疑問に思うようにデータBとデータDはどちらもMIM指導を受けていないので、比較する意味がないのでは無いかと思っても不思議ではありません。

しかし26年度は、各学校にMIMの理論をお伝えしているという現実があります。つまり、平成25年度の2年も3年もMIMの影響は一切排除されていますが、平成26年度以降は多少の影響が考えられ、「一切の排除」とはなりません。現に、校長先生から学力向上策のヒアリング時に「2年生の担任の先生も8月5日のMIM研修は行ってもらいます。」とか、「MIM-PMテストをすべての学年で実施を考えている」というお話しを伺っています。



MIMの仮説は
特殊音節の獲得に困難を示す児童は、発達障害(主にLD)の可能性が疑われる
だけでは、ないというのでござるのか。

何人かの校長先生が感じられているとおり、

特殊音節の読みに抵抗がなくなると、読むことへの抵抗感が低くなるだろう。

という前号で若干示した仮説も考えられるのです。そして読むことへの抵抗感が低くなれば学力向上に繋がっていくだろうということで、データBよりデータDが上がるのが期待できます。もちろん現2年の児童にはMIMによる指導をしているわけではありませんから、大きな変化はないかも知れませんが、MIM-PMテストの実施等(いろんな教材をMIMパッケージでご確認ください)で特殊音節に対する抵抗を一人でも多くの児童から取り除いていただくことで、データは動くと考えられます。データAの意味もこれでご理解いただけたらと思います。



作業3原則

授業の中では、子供達に指示をして作業をさせることがよくあります。作業は何も工作に限ったことではなく、ドリルや作文も言ってみれば作業の仲間といって良いでしょう。子ども達に作業を指示するときには大切な3つの原則があります。

- 1 説明をしつくす。
- 2 子供に作業内容を確認する。（質問させる）
- 3 作業が始まったらしゃべらない。



たったの3つ
でござるか。

簡単なようですが、私はこれが結構苦手でした。

「はい、今日は英語で手紙を書いてみよう。宛先は、校長先生。アドレスは学校にしよう。内容は、修学旅行に行って訪問したところの様子を3文以上で書くこと。手紙の始まり、どう書くんだっただかな。教科書の68ページを見て、よく考えること。いいか、わかったな。では、始め！」
といった具合に指示をして、机間指導を始めると、

「先生、修学旅行で訪問したところは3カ所ありますが、何処でも良いのですか？」と質問する子がいる。

↓指示が加わりました。

「そうだ、何処でも良い。自分が校長先生に伝えたいと思ったところなら、何処でも良い。」

「先生、僕は、新幹線の中で友達と過ごしたことを伝えたいのですが、それも良いですか？」

「新幹線はだめだ。訪問したところだ。 ←禁止条項は最初に言い尽くす。例外を認めない

「先生、高速道路のサービスエリアは訪問になりますか？すごく景色が良かったので・・・」

「う～ん、そうだな、それは良しとしよう。」 ←指示の変化、判断基準がわからなくなる。

「先生、それなら、新幹線から富士山が見えたことはどうですか？」

「新幹線はだめだ。」

「え～！？ サービスエリアと新幹線の景色とどう違うの？」

「新幹線は訪問していないだろう。サービスエリアはとりあえず訪問している。」 ←屁理屈

と、全く本質を見失ったやりとりになり、集中できない状況を生み、作業の邪魔になります。

MIM-PMテストをする際もこの3原則を念頭において実施をお願いします。もちろん他の作業にもすべて当てはまります。たった3つですが、結構これをやりきるのは教師の側にとって難しいので日頃から意識して取り組んでください。作業開始後の質問は受け付けませんという姿勢が大切です。やりきれば子供は作業内容を意識して先生の話聞くようになります。

MIM-PMテストの実施上の注意

用紙はB4が最適。しっかりやり方を説明。練習も必ず行う。必ず右上から左へ。一段終わったら、直ぐ下の段へ(右からですよ)。間違ったときの訂正方法(これが大事、とにかく時間をかけない方法を)。1分間とことんやる。でも1分たったら手は頭(正確さが大切)。1年生は感想欄も。

念のために、実施方法をつけておきます。1年以外の先生は、1年生の各クラスにセットがありますから、貸してもらってください。



確かに、縦の列でやっている子供がいたり、右からやったり左からやったりという子供がいたと報告を受けているが、やり方を子供が理解したかどうかの確認が重要でござるか。それから、2学期はスピードにこだわってみることも良さそうでござるのう。とにかく稽古を怠ってはならぬ。

M I M I P M めざせ よみめいじん の実施方法

「これから『めざせ よみめいじん』を行います」

「鉛筆を二本用意してください。消しゴムはいりません」

「問題は2つあります。はじめは『えにあうことばをみつけよう』という問題です」

例題用紙①を黒板に貼る。猫の絵を指す。



「この絵は何ですか？」

「そうですね。『ねこ』です。なので『ねこ』に○をします」

実際に例題用紙①にペンで○をする。

次に例題用紙②を黒板に貼る。柿の絵を指す。



「この絵は何ですか？」

「そうですね。『かき』です。これかな？」

『かき』に○をする。

「『かき』なのに『かき』に○をしてしまいました。

このように間違ってしまったら、消しゴムは使わず、線で消して（斜線を引く）正しいものに○をしてください（実演する）。

何か質問（わからないこと）はありますか？」

説明用紙②を示す。

「こうして番号の順に、横に解いていきます。わからなかったら、とばしてもよいです」

説明用紙①を黒板に貼る。

「これから一人ずつに、一枚目のプリントを配ります。プリントの裏は見ないでください」

「もらった人から、今日の日にちと、年、組、番号、名前を書きます」

「書き終わったら、姿勢を良くして静かに待ちましょう」

一人一人の机に、名前を書く欄を上にして配布。

全員の記名が終わったことを確認後、

「先生が『用意、はじめ』と言ったら、すぐにプリントを裏返して解き始めます」

「先生が『おわり』と言ったら、すぐに鉛筆を置いて、手は頭の上です」

「これは子どもから大人までがやる問題なので、全部できなくても大丈夫です」

「できるだけがんばってください。お友達と相談してはいけません」

「用意はいいですか？ はじめ」

1分計測後、

「おわり。鉛筆を置きます。手は頭の上です」

「後ろから集めます」

すぐに回収する。

例題用紙③（「いぬはないちご」）を黒板に貼る。

「次に『3つのことばをみつけよう』という問題をします」

「この文の中に3つのことばが隠されています。よく見ると、『いぬ』（と言って、下に線を引く）『はな』（下に線を引く）『いちご』ということばがありました」

例題用紙④（「みかんくつかいだん」）を貼る。

「この文には、（指で文の横をなぞりながら）『みかんくつかい』『かいだん』ということばがありますが、このように変なところできってしまった場合には（『みか』の下に線を引く）、消しゴムは使わずに、線で消して（斜線を引く）、正しいことばの下に線を引いてください（実演する）。
何か質問（わからないこと）はありますか？」

説明用紙④を示しながら、

「こうして番号の順に、横に解いていきます。わからなかったら、とばしてもよいです」

説明用紙⑤を黒板に貼る。

「これから一人ずつに、二枚目のプリントを配ります。プリントの裏は見ないでください」

「もらった人から、名前と番号を書きます」

「書き終わったら、姿勢を良くして静かに待ちましょう」

一人一人の机に、名前を書く欄を上にして配布。
全員の記名が終わったことを確認後、

「先生が『用意、はじめ』と言ったら、すぐにプリントを裏返して解き始めます」

「先生が『おわり』と言ったら、すぐに鉛筆を置いて、手は頭の上です」

「用意はいいですか？ はじめ」

一分計測後、

「おわり。鉛筆を置きます。手は頭の上です」

説明用紙⑤の「みんなのこと きかせて」の質問に対して二者択一で答えるやり方を説明する。

「今から、プリントを裏返して、今のプリントをやって感じたことや、思ったことを書きます。『みんなのこと きかせて』に答えてください（一問ずつ、具体的に説明してもよい）」

全員が感想を書き終わったことを確認後、

「後ろから集めます」

すぐに回収する。

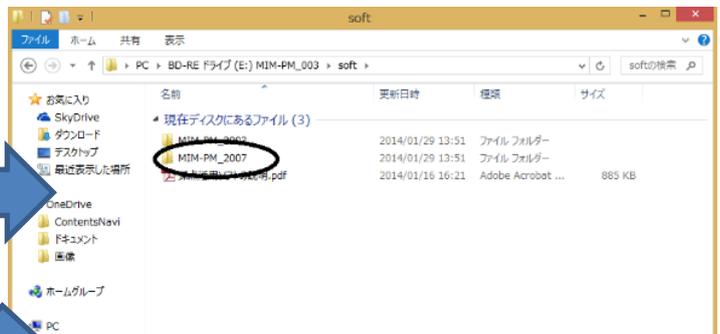
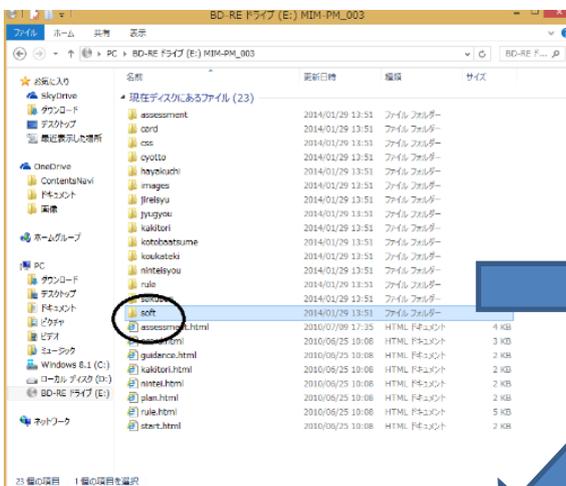


セカンドステージ指導の前に

2学期が始まりました。もうすっかり過去のことのように思えますが、8月5日に福岡県飯塚市から杉本先生をお迎えしてセカンドステージ研修を行いました。海津先生からビデオメッセージがあって、MIMの理論的な部分をもう一度おさらいし、要配慮児童を意識した指導の実際について杉本先生からご指導をいただきました。既に、2学期の準備をしていただきながら、5日の研修を思い出されていたことと存じます。

杉本先生のお話の中で、結果の情報（これをKR (Knowledge of Result) 情報といいます）早くというお話がありました。どうしても採点→入力→市教委や特総へ提出→返却となると時間がかかります。17校待って行いますからなおさらです。各クラスにMIMセットを配付していますから、その中にあるCDを利用していただくと直ぐにできますのでお知らせします。また、2年生以上の学年で実施される場合もこちらをご利用ください。ただし、3年生以上は色に反映されませんからご注意ください。高学年は「単位時間にできる数を増やすこと」を目標にされると良いかと思います。

CDを開くと左のようなフォルダが並んで表示されます。「soft」をクリックします。



次に MIM-PM2007 を保存し、その後開きます。

1年生では「1年各月」か「1年隔週」を選択、2年生は「2年各月」をクリック。3年以上はとりあえず2年と同様にしてもらってもいいですが、分析には使えません。

余が見えぬぞ。

一番下の、「入力データ」を開いて、名簿を作成し、テスト結果を入力します。ここにどんだんためた後、「個別の支援計画」を開き、☆マークをクリックしてください。個別に弱点が示され、支援を記録できるようになっています。ご活用ください。 ↓ 部注意



CDは読み取り専用ですから、「入力データ」に入力しても保存されません。

一旦、学校のサーバか、公用パソコンなら、Dドライブに保存してください。CDすべてを保存する必要はありません。MIM-PM2007 のフォルダだけで結構です。今後は、保存したフォルダから「入力データ」を開いて作業を進めてください。ファイル名は変更せず、このまま使ってください。

学校で一括管理される場合もフォルダの名前で学年クラスを区別し、フォルダ内はこのファイルの名前を使ってください。